

2025 年のクマによる人身被害の増加とその対応について、NACS-J の現状認識

公益財団法人 日本自然保護協会
理事長 土屋 俊幸

公益財団法人日本自然保護協会（NACS-J）は、今年のクマ（ツキノワグマ、ヒグマ）による人身被害の増加と、その対応状況について、現状の認識を整理しました。整理にあたっては、日本学術会議(2019)、日本クマネットワーク（2025 a,b）、梶 光一（2025）等を参考にしました。

1. クマ（ツキノワグマ、ヒグマ）について

日本には、ツキノワグマが四国と本州に、ヒグマが北海道に生息しています。九州のツキノワグマは絶滅しており、四国のツキノワグマは、2024 年度に 26 頭しか確認されておらず、絶滅の危機にあります。

クマ類の分布域は拡大傾向にあり過去 40 年間に約 2 倍に拡大しています。また、ヒグマは過去 30 年間で推定生息数は倍増しています。ツキノワグマの生息数推定は限られていますが、兵庫県では年率 15%の増加をしていることから、全国的にも増加していると推測されます。2000 年以降にブナ科堅果（ドングリ）の不作の年には、大量出沒が発生するようになり、その規模が増加しています。

クマは、季節毎に森林の多様な動植物を餌資源とする、森林生態系の「アンブレラ種」です。また、多様な果実を食べて、その種子を大量に長距離移動させる「種子散布」、遡上してきたサケ・マス類を捕食してその栄養塩を陸上に運ぶなど、生態系での役割をしています。大型哺乳動物であるクマが、人口密度が高く、狭い島国の日本に生息していることは、日本の豊かな生物多様性の象徴といえます。

2. 人間活動域への出沒と人身被害の増加と対策について

近年の人間活動域へのクマの出沒増加は、①クマの分布拡大と生息数の増加、②人慣れして人を恐れないクマの出現、③ブナ科堅果類の不作による餌不足、が主な要因だと考えています。そして、出沒件数と人身被害件数ならびに捕獲件数は高い相関があるため、人身被害増加の主要因には、分布拡大と生息数増加が想定されます。

具体的な対策にあたっては、ツキノワグマとヒグマのそれぞれの特性を踏まえた、地域ごとの分析が重要です。短期的には、人々の生活の安全確保を最優先とし、人身被害を及ぼす可能性のある、人間活動域内に生息するクマを捕獲し、リスクを低減することが必要です。また、クマの人馴れを防ぎ、クマと人が互いに恐れ合う緊張関係の構築が重要です。

中期的には、地域ごとの科学的な個体数推定に基づき、ブナ科堅果類の不作年にも大量出沒が発生させない適正規模での個体数管理と、人とクマのすみ分け（ゾーニング）を実現する必要があります。

す。そのためには、地域ごとに、自然科学の専門知識と捕獲技術を持つ人材と組織体制を構築し、科学的なデータに基づいた対策検討が求められます。

地域ごとの中期的な対策においては、単にクマ対策にとどまらず、生態系管理をつうじて地域課題を解決する「自然を活用した解決策（NbS：Nature-based Solutions）」の視点や、地域の生物多様性を回復させる「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の視点で、統合的な施策にすることが効果的です。例えば、人とクマとの緩衝地帯をつくることは、林業振興や、里地里山の生物多様性の回復と親和性があります。また、クマを奥山にとどめるためには、奥山の放置された人工林を自然林へ転換して生息地を回復させることが有効です。さらに、これらの取り組みを、教育活動や都市との関係人口拡大の機会にすることもできます。そして、クマを恐れ、敬い、獲った命は無駄にしないことも重要です。

以上

【参考】

日本学術会議(2019).「人口縮小社会における野生動物管理のあり方」

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-k280.pdf>

日本クマネットワーク(2025a).「クマ類による被害への防止対策に関する提言」

<https://www.japanbear.org/wp/wp-content/uploads/2025/11/JBN-teigen2025.pdf>

日本クマネットワーク(2025b).「2025 年秋季のクマ類を巡る状況に関する現状整理」

<https://www.japanbear.org/wp/wp-content/uploads/2025/11/JBN-genjyoseiri2025.pdf>

梶光一(2025).「ヒグマ駆除は米軍の特殊部隊と戦うようなもの！迫り来るクマの脅威…ドングリの凶作だけが原因か？人間が心得るべきこと」. Wedge Online

<https://wedge.ismedia.jp/articles/-/38684>

四国森林管理局, 中国四国地方環境事務所, (認特) 四国自然史科学研究センター(2025). 四国山地におけるツキノワグマ生息調査の結果について ～「はしっこプロジェクト 2024」～

<https://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/press/keikaku/250612.html>

クマ類保護及び管理に関する検討会(2024). クマ類による被害防止に向けた対策方針. 環境省

<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/kuma-prevention-all.pdf>

兵庫県(2025). 第2期ツキノワグマ管理計画令和7年度事業実施計画

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk27/documents/kumahonntai.pdf>